

令和4年度第3回中野区総合教育会議

- 1 日 時 令和5年(2023年)2月10日(金) 開会:11時00分  
閉会:11時47分
- 2 場 所 区役所7階第8・9会議室
- 3 出席者 (構成員)  
酒井区長、入野教育長、岡本教育委員、村杉教育委員、平本教育委員、  
伊藤教育委員  
(関係職員)  
青山副区長、横山副区長、企画部長、総務部長、子ども教育部長・教育  
委員会事務局次長、子ども教育部子ども家庭支援担当部長・教育委員会  
事務局参事(子ども家庭支援担当)、企画部企画課長、総務部総務課長、  
子ども教育部・教育委員会事務局子ども・教育政策課長、教育委員会事  
務局指導室長、区民部文化国際交流担当課長  
(事務局)  
総務部総務課職員
- 4 議 題 中野区教育大綱の改定について
- 5 傍聴人数 8人

## 6 議事経過

【午前11時00分開会】

[総務部長]

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第3回中野区総合教育会議を開催いたします。

私は司会を務めさせていただきます総務部長の海老沢でございます。よろしくお願いいたします。教育委員の皆様には、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

前回の総合教育会議でございますが、本年11月に行われまして、中野区教育大綱の改定素案をお示しいたしまして、ご議論いただいたところでございます。その改定素案をもちまして12月から3回の意見交換を行いました。それを踏まえての改定案を取りまとめたというところでございます。本日はその改定案につきましてご意見を頂戴したいと考えております。

それでは早速協議事項に入っております。まず、お手元の資料について企画課長から説明し、その後、質疑応答の時間を設けます。なお、出席者の皆様へは、教育大綱改定案の新旧対照表を添付しておりますので、ご参考までにご覧いただきたいと思っております。

それでは、まず別紙資料につきまして、企画課長から説明をお願いいたします。

[企画課長]

では、お手元の資料によりご説明させていただきます。まず、1番目の「意見交換会等の実施結果」でございます。こちらは(1)としまして、中学生と区長の意見交換会を実施いたしました。

11月8日に行いまして、北中野中学校の生徒15名の参加がございました。テーマは「私たちのまち、これからの教育について」でございました。主な意見といたしましては、スポーツなどが観戦できる機会や海外の都市と交換留学ができる制度があると良いですとか、地域とのつながりとして防災訓練や、戦争体験を聞くといった機会があると良いという意見がありました。そのほか、北中野中学校の新校舎の整備計画ですとか、勉強ができる施設を増やしてほしいというような意見がございました。

続きまして、(2)の改定素案に関する意見交換会でございます。後ほどご説明いたしますが、こちらは前回の総合教育会議での資料にメッセージの入った改定案をもとに意見交

換会を行いました。12月13日と16日、1月8日に行いまして、合計で24名の方の参加がございました。主な意見といたしましては、1番の「主体性」という言葉が入っていると素敵と感じたというものがございました。区の考え方といたしましては、今までご議論いただきました「自分らしく」という表現の中に意味合いが込められていると考えてございます。2番目以降の意見でございますが、新しい教育を行おうという意志が感じられるですとか、総合教育会議におきましての踏み込んだ議論、区民意見も取り入れてできたものであると感じるといった意見、メッセージが子どもたちでもわかりやすく、希望を持つことができるといった意見などがございました。最後6番目でございますが、自己肯定感を育てていくことについてうたえているというような内容の意見がございました。

あわせて、アンケートも実施いたしました。こちらは区のホームページで12月2日から1月8日までの期間で意見募集をいたしまして、15名の方からご回答がありました。左側にあります教育理念のキーワードに関する質問については、上位となりました項目が「人と人がつながる」、あと「相互理解・学び合い」でした。右側の「中野らしさ」という質問につきましては、「多様性にあふれている」ですとか「自分らしく生きられるまち」といった、いずれも今回の理念や方針に入っている文言が上位に来てございます。

5ページ目以降から改定案でございますが、素案からの改定が2カ所ございます。「はじめに」の部分で、アンダーラインがございまして「つながりの中で、誰もが自分らしく学べる」というところが、前回までは「このような」と表現していましたが、より具体的に、上段の部分ですとか、理念とつなげたような文言に置き換えさせていただいております。

7ページ目の「方針」でございますが、修正箇所は方針第1のメッセージ部分でございますが、「教育の場」という表現を「教育のまち」というふうに、より広い概念で修正させていただいております。なお、このメッセージは、前回の総合教育会議ではございませんでしたが、委員の皆様から「よりわかりやすい内容を盛り込んで」というご意見をいただきまして、それぞれ方針の第1、第2、第3にメッセージを加えました。お子さんからご高齢の方、あるいは外国語が母国語の方などがわかりやすいように、シンプルな表現にしました。メッセージ内容につきましてはお読み取りいただければと思います。

最後のページにスケジュールがございまして、3月に議会などへの報告を行いまして、パブリック・コメントを予定しています。その後、4月に教育大綱を策定する予定でございます。

ご説明は以上でございます。

[総務部長]

それでは、これから協議に入っていきたいと思いますが、まず、ただいま説明した中の「意見交換会等の実施結果」についてご質問がありましたら、まず受けたいと思います。いかがでしょうか。

(質疑なし)

それでは、教育大綱の改定案について、全体的にご協議していただきますので、ご質問、ご意見等あればお願いしたいと思います。

[平本委員]

私は昨年12月に委員に就任いたしましたため、昨年までの会議に出席できておりませんので、議論の経過を議事録等の資料で拝見させていただいております。

まず、意見交換会も含めて、中野区の教育大綱を丁寧につくり上げてくださっている過程がよく見えました。また内容についても、23区の中でも非常に先進的なよい内容になっていると感じました。詳しいご説明もいただきありがとうございます。

1点気になったのが言葉の使い分けの点でして、「場」なのか「まち」なのかということですが、今の話だと「場」よりも「まち」のほうが広くて、中野というまちの中に学びの場をつくるというようなイメージで理解していいのか、言葉の使い分けを意識して、統一して用いられているのかという点がまず1つ気になったということです。

方針の第1のところ、方針の部分では「学びの場」「教育の場」という言葉が使われているのですが、あえてメッセージの方を「まち」に変えてくださっている部分があります。どういう意図で本文のところとメッセージをつくっているのかというものが区民の皆さんに伝わるとよいのかなと思いました。

先ほどのご説明だと、むしろ「場」よりも広いのが「まち」だという説明だったのですが、逆に私は最初にずっと読んだときは逆に受け止めました。「教育の場」というのはあらゆるところにあって、「まち」を越えた場所に「教育の場」は、どこにでもあります。日本中どこにでもある中で、でも中野は、教育の場の中で「まち」ということだと思うので、それが伝わるような形で整理ができると区民の方にもずっと伝わるのかなと思います。「まち」の中にそういう「場」をつくるというような形にできるとすごくいいのかなということと、「学びのまち」なのか「教育のまち」なのか、使い分けるのであればそこを整理したほうが伝わりやすくなるのかなと思います。

もう1点、「学び」と「教育」という言葉なのですけれども、使い分け自体、私自身はす

ごく難しいと思っています。「学び」という言葉になると、区民の受け止めとしては学ぶ場がありまして、もちろん教育に関わる場も、共に学ぶという意味での学びの主体に入ってくると思うのですけれども、「教育」はより多義的な言葉になると思います。基本的には教え育てるという側が主語になると思うので、もしその使い分けを意識されていて、「教育」にしているのか「学び」にしているのか、あえてここは「学び」にしているというところがわかるとすごくいいのかなと思いました。

あと、私としては、方針の第1にもあるとおり、中野区として「教育」という言葉は、いわゆる学校教育には限定せずに、社会教育も含めた使い方をされていて、その垣根もなくしていけるような、学びの場を整え、先進的な取組をしていこうとしている段階だと理解しています。なので、まずこの言葉をどういうふうに区別して使っているのか、区別して使うのであれば、中野区としてどういう方針なのか、メッセージがより区民に伝わるように統一するといいいのかなと思いました。

私自身が去年までの会議に十分参加できていなかったのも、意見としてわかりにくいところがあるかもしれないのですけれども、目指すところが皆さんで共通認識を持たれていると思うので、それが区民の受け止めとしてわかりやすいような説明、発信がされると非常にいいのかなと思いました。

[区長]

まず、「場」と「まち」は広さの概念だと思うのですけれども、私も「まち」のほうが広いというふうには捉えていたのですけれども、それは一度、全体を見て整理をしたいと思います。

それから「教育」と「学び」について、やはりイメージとして「教育」というのは、どちらかというと、こちらから教え育てるということと捉えています。「学ぶ」というのは、主体的な学びという意味合いが強いので、生涯教育、生涯学習ということを考えると、主体的な「学び」がよろしいかなとは思っているのですけれども、我々行政側としては、そういうものを用意していく立場だと認識しています。だから、学びの場を支えていくというような意味合いを我々としては伝えたいと思うので、そこも「教育」と使っています。

[平本委員]

文章とかメッセージをつくる時に、主語を誰にするかという目線での整理でもいいのかもしれないと思います。こちら側が主語になるときは、提供するの「教育の場」になりますし、区民の皆さんを主語にするなら「学びの場」になるかと思います。こちらはと

もに「学びの場」をつくっていくことになるので、そういう意味ではこちらが主語のときはどう使ってもいいのかもしれないです。そこは統一というか、齟齬がないように説明できるとすごくいいのかなと思います。

[区長]

主語で整理できるのか、全体検証します。

[伊藤委員]

今のお話と関連してなのですが、方針の第1のところ、「まち」というメッセージですけれども、私の勝手な理解かもしれませんが、学校教育・社会教育も含めた総合的なまちをつくっていく、地域をつくっていくというようなことになっていると捉えています。また、第2のところは学校教育を中心とした教育ということから「教育の場」をつくっていくとなっていて、第3はそういった狭い意味での教育、いわゆる学校教育を中心とした教育だけでなく、自然な学びとか、生涯学習も含めた文化芸術への触れ合いも含めた形での、人々がいろいろな形で学べる機会という意味で書いてくださったので「学び」になっているのかなと、そんなふうに理解いたしました。

その上で、メッセージはすごく斬新というか、何か心を伝えるということですのできだなと思うのですが、このメッセージの意味合いとしては、上に書いてあるこの方針をよりわかりやすく伝えるという意図なのか、あるいはこの方針をつくった背景にある思いのようなものを示しているのか、どちらかによって多少内容が異なってくるのかもしれないと感じまして、このメッセージの位置づけについて、何か教えていただけることがあればと思いました。

[区長]

これは、わかりやすく伝えるためのものです。

[伊藤委員]

もし、わかりやすくという趣旨でしたら、第1に書かれていることは誰もが自己肯定感を育みながら、チャレンジ精神を持って、その人らしく個性を生かした学びができるという、そういうことが可能なまちということだと思うので、みんな一緒にこんなことができるというよりは、もう少し具体化して、それぞれ誰もが自分らしく学ぶことができる、そういうふうな文言のほうが伝わりやすいのかなと思いました。

[区長]

わかりました。受け止めます。上の方針の文章には、ある程度細かく書いているので、

難しく書いているというのは否めません。それを子どもが読んだときに、伝わりやすくするためにはということで、その下のメッセージができているわけなので、全部を伝えるとなるとまた同じ文章になってしまいますので、その中でも特に伝えたいものは何かというところだと思っております。

[岡本委員]

私もお伺いしたいのですが、基本理念の3つ目で、「新たな活力」が生まれるとあるのですけれども、これは具体的にどういうイメージなのかというのを改めて区長にお伺いしたいと思いました。

[区長]

これは基本構想の中でも言っていることなのですけれども、例えば中野でいろいろな人が暮らしていて、その中で当然ビジネスでもそうですし、あと、コミュニティでも、地縁でも何でもいいです、趣味でもいいです、いろいろなもので人がつながって行って、そこで何か新たな活動が生まれたり、新たなサービスが生まれたり、また、例えば学びの場で知り合っ、1つのサークルができて、そこで新たに活動を始めてみてとか、そういうものが区の活力を支えていくのだと思っております。ですから「学び」をまちの活力につなげていきたいという思いがここに入っています。基本構想でもそれは同じことを言っているのですけれども、「学び」をそこにも生かしていきたいという思いです。

[岡本委員]

わかりました。ありがとうございます。区長の今の説明だと、区全体としてという方向性だったのですけれども、個人の中にも生まれるのかなというイメージもありましたので、個人として新たな魅力を持てたり、生きがいを持てたりすることが、ここにもつながるのかなと思ったのでお伺いしました。

もう1つお伺いしたいのですけれども、方針の第3の「学びの環境の整備」のところで、最初に「学びの場が確保され、誰にでも学ぶ機会が保障されるとともに」とあるのですが、これは具体的にはハード面のことだけを考えていらっしゃるのか、それとも例えば、不登校の子などに対して、ソフト面でも学びの場が確保されて、誰にでも学ぶ機会が保障されるというふうにも受け止められるかなと思ったのですけれども、そのあたりの具体的なお考えをお聞かせいただければと思います。

[区長]

ハード面だけではなく、ソフト面も含めて整備をしていきたいと考えています。その下

にメッセージとして「文化・芸術・スポーツなどが楽しめる学びの場」と書いてありますけれども、そこに参加する機会のない子どもでも、例えばそれを楽しめるような仕組みをつくっていただくか、そういうことも含めての「学ぶ機会」、「学びの場」だと思います。

[伊藤委員]

これまでの議論に関わってなのですが、基本理念のほうの、「つながりの中で、新たな活力」というのは、私も個人の中でも違った考え方に接して、新しい考え方が生まれるというか、むしろ個人のことまですごく含まれているのかなと受け取りました。

先ほどのメッセージのところですが、今、岡本委員が言われていた方針の第3のソフト面・ハード面というところがありました。捉え方もかもしれませんが、メッセージが「学びの場をつくっていきます」だと、ハード面のことを、この文章で言えば後半の部分のことがうたわれているような感じがしてしまうのかなと思います。前半の機会というのはソフト面だと思うので、何かアクセシビリティといいますか、学びの機会につながりやすいとか、ソフト面もハード面も考えていますよというメッセージだと、より第3のところとうまく伝わるのかなというように思いました。

それと、先ほどの方針第1のメッセージに戻りますが、「みんないっしょに学ぶ」ということは、一人で学びなさいということではなくて、関わり合いながら自分らしく学ぶというふうに理解をしています。自分らしいということと関わり合いながらというのは、二律背反ではなくて、両方が大事ということで理解しているのですけれども、そういうふうに考えたときに「みんないっしょ」と言ってしまうと、協同しながら個性を自分らしくというニュアンスがうまく表現できているか不安だったといいますか、もう一工夫あったほうが区長のおっしゃられた意味合いが明確になるかもしれないと感じました。単純に「一緒」というふうにイメージされてしまうかもしれないので。

[区長]

これは、前の議論の中で、一人で学ぶよりもみんなで学ぶことによって、お互いがまた高め合うということ、岡本委員がおっしゃっていたことを受けて「みんないっしょに」が入ったのです。しかし、今、指摘されたことに対しても、確かにそれもあるというのは私も感じたので、ここは1回受け止めます。

[岡本委員]

学びの場では自分で学ぶことも大事だし、みんなと一緒に学ぶことも大事なのです。伊藤委員もおっしゃったように、どちらかではなくて両方大事です。場面もそうですし、み

んなどと一緒に学ぶために、自分で学ぶということもあるでしょうし、最終的な目標を考えるとときには、一人だけで学んでもしょうがないので、そういう意味ではこのメッセージの「みんないっしょに学ぶことのできる」というのは、伊藤委員もおっしゃったように、どちらかに偏りがあるのかなという印象はありました。

[伊藤委員]

そういう意味では、学び合えるとか、お互いに学べるといったこととか、自分らしくかつ学び合えるという意味が両方入っているような文章だと、わかりやすいのかなと思いました。自分のやりたいことにチャレンジでき、学び合いながら、自分らしい学びができるというように、なかなか日本語としては難しいですけど、岡本委員が言われたのは学び合いの部分、文部科学省が言っているのも学び合いの部分かなということは思いました。

[区長]

前の文章には、「学び合う」と書いたのですが、メッセージにしたときに、どこまでそれをうまく伝えるか。全部を伝えることは難しいかと考えています。

[伊藤委員]

そうですね。

[平本委員]

今、皆さんの議論を聞いて、あと全体を読んで思ったのが、「つながる」ってすごくいい言葉だなと、いろいろなところを読んで思っていて、それが第1のメッセージの中にも入ってくるといいのかなという気はしました。例えばですけど、誰でも自分がやりたいことにチャレンジでき、つながりの中で学び合えるとか、メッセージの中に「つながり」という言葉を入れてもいいのかなというのが、皆さんが目指しているところだと思いました。

前の基本理念の中で、青字になっている「自分らしく」「つながる」「新たな活力」という部分が、やはり強調されて出たほうがいいと思います。皆さんのお話を聞いて、「新たな活力」というところが、私もすごくいいと感じて、個人の中で新しい考えが生まれていくこととか、学ぶことで終わらせない、学びのその先につなげていきたいというところが、すごく出ているのいい部分だと思ったので、つながりも含めて、青字にしている部分をもう少しメッセージの中で伝えてもいいのかなというように思いました。

[伊藤委員]

今のお話を聞いて気がついたのですが、第2のメッセージが、「いろいろな人が住む中野のまちで、みんなが違いを大切にしながら、おたがいに学び合う」というふうな形で書い

てくださって、とてもすてきなメッセージだと思うのですが、もしかしたら第1のところ  
が、社会教育も含めた総論という形であれば、この第2のところにあるメッセージが、第  
1のところにあってもいいのかなと思いました。第2のところのメッセージは、「いろい  
ろな人が住む中野のまちで、みんなが違いを大切にしながら、おたがいに学び合う」という  
メッセージなので、学校教育だけではなくて、社会教育も含めて、みんなが違いを大事に  
しながら学び合えるということを、まず大事にしますよという大きなメッセージなので、  
もしかしたら第1に書いていらっしやることと近いのかなと思いました。

逆に第1のところのメッセージは「自分がやりたいことにチャレンジでき」という内容  
なので、学校教育の視点で、子どもを主体として読み取るとわかりやすいかと思いました。  
第2が、学校教育に少しフォーカスされたところであるならば、第1のメッセージが下  
に来て、「だれでも、自分がやりたいことにチャレンジでき」、いろいろな人と学べるとか、  
いろいろな地域の人とのつながりがあって、友達や地域の人ともっと一緒に学べる教育の  
場をつくるというふうに、「まち」と「場」のところが反対でもわかりやすいのかなと思  
いました。

[区長]

第2のほうでは、多様性とか中野の特徴を学校教育にも生かしていくということが主旨  
になっているので、メッセージを入れ替えるというのは難しいかなと思うのです。ご指摘  
の点は構造の問題になってくるので、第1が全体、第2は各論のように学校教育について  
整理しているので、全体に多様性がかかってもおかしくないと考えています。

[伊藤委員]

中野のまちが多様である、そのことを生かした教育というのが第2のところのメッセ  
ージなのですね。なるほど、わかりました。

[区長]

今回、教育大綱の中での「多様性」というのは1つのキーワードだと思っているので、  
それをここに大きく位置づけたということです。

[伊藤委員]

いろいろな人が住む中野の特徴を生かしてというふうに書いていただくのがわかりやす  
いかもかもしれません。ありがとうございます。

[村杉委員]

少し前の議論に戻るかもしれませんが、私も最初に読ませていただいたときに、この第

1のメッセージのところの「学ぶことのできる教育のまち」という「まち」が出てきたところで少し違和感を持ちましたが、でも、何度か読んでいるうちに、このメッセージは区民の方に対するメッセージで、この「まち」と出てきたときに、中野を連想させるので、良いのではないかなと思います。

あとは第3の「学びの環境の整備」のところでも、以前、田中委員がおっしゃられたスポーツのことも入っていて、これもとても良いのではないかなと思います。

全体として、区長の思いがわかりやすく伝わる形でできていると思います。

[岡本委員]

実は先ほどの教育委員会定例会でも多様性について話題になっていたのですが、「はじめに」の真ん中あたりで「中野区は、数多くの国と地域からの人や・・・多様性にあふれたまちです。」とあります。もちろん、これはこれでそのとおりだと思うのですが、本来一人ひとりの人が違うことを大事にするということが多様性を尊重するということであって、例示を挙げると、もちろんこの例示に挙がっている方々は今、尊重されていないから例示に挙げているのですけれども、かえって「一人ひとりが」というところが埋もれてしまわないかなと心配になるところです。どう書いていただければということは難しい問題ですが、すべての人の多様性を尊重するといったニュアンスが少しでも出せればと思いました。

[区長]

趣旨としてはわかります。ただ、国籍や、LGBTQ、障害などは例示列举と捉えています。それ以外にもいろいろな言葉があり、それがそれぞれ組み合わせって個性、個人がいますよということですが、それよりも一人ひとりが個性を持っていて、価値観が違いますよということを伝えたほうが良いということをおっしゃっているのですね。

[岡本委員]

おっしゃるとおりで、誤解を恐れずに言えば、わかりやすい特性です。本来一人ひとりの性的嗜好が違っているように、同じ地域出身でも考えることがもちろん違うので、そういうところをお互い大切にしていくことが、多様性を尊重するということだと思いました。

[区長]

多様性にあふれたまちというときに、やはりこういう属性とか、例示列举しないと伝わらないと思いましたが、そもそも多様性というものは、一人ひとりが、すべて組み合わせが違って個性があるという、その次の段階で言えることなのではないかなというのを今、

感じました。そこは、思いはわかりましたので、工夫ができたらしめてみたいと思います。  
ありがとうございます。

[伊藤委員]

今のところですけども、もしかしたら例示が「人」になっているので誤解が生まれるのかもしれませんが。例えば障害のある「人」という形になっているので、「人」としないで障害のあるなしとか、そういう「観点」、こういう「点」でというふうにするのも、たくさんの観点で見たらたくさんの違いがあるということを伝えやすいのかもしれないなと思いました。

[区長]

そうですね。確かに「人」でくくってしまうから、その人の属性が1つといったように見えてしまうのですね。そこは工夫したいと思います。

[岡本委員]

細かいところで、漢字、平仮名の表記についての確認をさせていただきたいのですけれども、例えば、方針の第3で、方針のほうは「誰」というのは漢字で、メッセージの「だれ」は平仮名になっている。これは先ほどのご説明にあったように、子どもに読んでほしいからということですか。

[区長]

方針の第1のメッセージでも「だれ」は平仮名になっていますね。これは小さなお子さんでも、外国語が母国語の方にもわかりやすいように、なるべく漢字は使わないほうがいいかなという思いを込めています。

[岡本委員]

そういう意味では、メッセージはすべてルビを振ってもいいのかなと思いました。

[伊藤委員]

すごく小さなことなのですが、今の「誰でも」というところで、第1では「だれでも」で、第3では「だれにでも」になっているのですけれども、第3のメッセージでは「文化・芸術・スポーツなどが楽しめる学びの場」にかかるので、「だれにでも」がいいのか「だれでも」がいいのか、気にかかりました。「文化・芸術・スポーツなどが楽しめる」というのは、誰が主語になるのかとか、やさしい日本語を考えたときに、この構文が一番わかりやすいかどうか、ご検討いただいてもいいのかなと思いました。

「文化・芸術などがだれにでも楽しめる」とか、「だれにでも」が後にきてもいいかと思

います。「誰にでも学ぶ機会」というのは適切かと思うのですが、「だれにでも」と「だれでも」の使い分けのところで、わかりやすさをもう一度確認していただければいいかなと思いました。

[総務部長]

それでは、意見も大分尽くされたというところでございますので、全体を通して、教育委員からのご発言は、何かございますか。

[教育長]

教育委員の方々とのお話の中で、区長の思いがだんだん形になってきてよかったなということと同時に、我々も今、教育ビジョンの改定作業をやっておりまして、この話し合いですとか、区長の思いを受けて、そちらに反映していくようにしておりますので、いい機会を与えていただいたなと思っております。

今日は特に午前中、教育委員会定例会にて教育ビジョンの見直しについて協議しておりましたので、余計にそういうところからもご発言が出たのかなと思います。ありがとうございました。

[総務部長]

それでは、最後に区長のほうから全体を通してご発言ありましたらお願いします。

[区長]

3回にわたってご議論いただき、しかも事前のいろいろな説明もありましたので、本当に時間をかけていただきまして、感謝申し上げます。

今、教育長からもお話がありましたけれども、今回、基本構想を受けて、教育大綱が全面改定します。これはやはり基本構想をみんなで作ったものですから、それに基づくものというのは、基本、考え方も変わるのだろうなということで、プロセスを経て変えてきたわけであります。

ですから、今回この教育大綱が変わることによって、これを実現するための我々の行政組織や行政のあり方というのも、もう一度考えていきたいと思っております。

ぜひ教育ビジョンも、教育大綱の改定を受けて改定いただいて、それに対して我々も全力で応援していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

[総務部長]

それでは、今後の予定でございますが、3月にこの教育大綱の改定案にパブリック・コメントを実施しまして、その結果を受けて、本日のご議論を踏まえまして、最終的に4月

をめぐり、教育大綱を決定していきたいと考えています。

長きにわたりまして、ご議論いただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、本日の中野区総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。

【午前11時47分閉会】